

第 5 号様式（第 6 条関係）

綾瀬中 学校 学校運営協議会会議録

会 議 の 名 称	第 2 回 綾瀬中学校 学校運営協議会		
開催日	令和 8 年 8 月 2 5 日（火）		
開催時間	1 5 時 3 0 分 ～ 1 6 時 3 5 分		
開催場所	綾瀬中学校体育館		
議長	佐々木 圭介 委員		
出席者	校長 上山 智也 委員 田中 亘、綱島 義光、森山 浩好、谷田 健雄 金嶋 富久子、田端 久美、 佐々木 圭介、井上 淳史、守屋 秀隆 古知谷 康矩、岡本 恵子、橋本 牧枝 ※綾瀬中学校職員		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0 名
会議の内容			
【議題】 熟議「中学生のパワーで地域を元気にするには？」 ～地域の困りごとを、中学生の力で解決するアイデアを考えよう～ （報告） 第 1 学年：地域課題の把握と参加への動機付け 現状と課題：小学生の登下校を見守るボランティアの高齢化、自治会中核メンバーの若年層不足、高齢者のデジタルデバイス（スマホ等）操作における困りごとの存在。また、学校側が地域の具体的なニーズを十分に把握できていない情報の乖離。 即時実施案：「学校図書館の地域開放」による物理的な交流拠点の創出。 中学生自身による「登下校路の安全点検」の実施。 将来像：参加動機を強化するインセンティブ設計（わんぱくシールの活用、学校内での表彰制度の確立）により、活動を教育課程の一部として定着させる。 第 2 学年：既存行事の活性化と計画的交流 現状と課題：地域住民の高齢化が進む中、中学生が地域社会と接触する機会が圧倒的に不足しており、活動未経験者にとっての心理的ハードルが高い。 即時実施案：既存の地域行事（芋掘り、清掃活動等）への参加周知を徹底する。未経験の生徒に対し、初回参加を促すための仕組み（一定の強制力を持たせた参加機会）を試験的に導入する。 将来像：中学生が得意とする SNS による情報発信 を通じた地域活動の可視化。「昔遊びの復活」や「老人ホーム等との計画的な交流」による多世代共生社会の構築。 第 3 学年：中学生のパワーによる地域活性化 現状と課題：責任回避傾向や金銭面、仕事との両立による地域の人手不足。特にスマートフォンの普及による対面コミュニケーションの減少が顕著であり、家族や限定された友人としか関わらない「交流の孤			

立化」が課題となっている。

即時実施案：挨拶運動、地域ボランティア、清掃活動、防災訓練への積極的参画。部活動への小学生の受け入れ。

将来像：綾瀬で展開されている「ゼロの日運動」等の既存スキームを活用した外出機会の創出。子ども食堂への関与や、外出困難な高齢者に対する「本読み聞かせ」「介護等体験」など、生徒の持ち味を活かした独自の社会貢献。

熟議の総括として、活動を一時的なイベントに終わらせず、組織的に継続させるための重要方針が確認された。

連携維持：現在、学校現場では中堅層の教員が極めて少なく、特定の担当教員（総括教諭等）に依存した運営は、異動に伴う連携の中断リスクが高い。このため、部活動や委員会を正式な窓口として制度化し、教員個人の資質に頼らない持続可能な事務局体制を構築していきたい。

運営の転換：地域の困りごとを生徒が「自分事」として捉えるため、次回以降の熟議には「生徒会役員」を参加させることも検討。大人が決めた枠組みに従うのではなく、生徒自身が地域課題を直接聞き、主体的にアクションプランを修正・立案する場を設けられるとよい。

○合唱祭 日時：10月1日（木） 9:35 開始

会場：オーエンス文化会館

○体育祭 日時：10月24日（土）8:45 開始

後日、詳細案内を郵送。

【配付資料】

○第2回学校運営協議会レジュメ

次回開催予定

令和9年2月19日（金） 15：45～